

最優秀賞

おこらねるいご、なるといご

福岡県 北九州市立足立小学校二年 小田 孝太朗

「今年こそ おこられないぞ だれからも」

ぼくは、今年の春からおじいちゃんに、川りゅうをならっています。言ばをリズムにのせるのがおもしろいので、今年は家の七夕のたんざくに、五七五でこうねがいごとを書きました。

ぼくは、とにかくおこられます。お母さんからも先生からもスイミングのコーチからも。

「こんじょうがない。すぐあきらめて。」

「何でまじめにしないの。」

などいつも言われます。そのたびに「一生けんめいしているのに」とか「あきらめたわけではないのに」とか心の中で言っています。

ぼくの家では、一か月に一回「家読」をしています。今月は、お母さんといっしょに『おこだでませんように』という本を読むことになりました。この本に出てくる男の子は、ぼくといっしょでよくおこ

られます。なぜおこられてばかりなのかと思った男の子は、学校で七夕のたんざくにおねがいごとを書くとき、ならったばかりのひらがなで一生けんめい「おこだでませんように」と書きました。ぼくは、はずかしいし、また先生に、

「ふざけません。」

とおこられるので、学校では書けないなと思います。ゆう気を出して、がんばって書いた男の子は、すごいなと思いました。男の子のおねがいを知った先生やお母さんは、「またよけいなことを書いて…」とおこったと思いますか。じつは、先生もお母さんもぎゅうとだきしめてくれたのです。いっしょに読んでいたぼくのお母さんは、読みおわるとポロポロなみだをながしていたので、ぼくはびっくりして、

「どうしたの。」

と聞くと、

「お母さんも、おこってばかりだったね。毎日、学校もスイミングも休まずがんばっているのね。もっと出きるんじゃないかとか、これからこまらないようにとか思って、気づけば、いつもいつもおこっていたね。こう太ろうに教えてもらうことも、たくさんあるんだよ。こう太ろうは、お母さんのずっとずっとたからもの。」
と言って、ぼくの頭をなでて、いきができないくらい、だきしめてくれました。
おこられることは、けっしていい気もちではないけど、おこる人のことが大すきで、大せつに思っているからなのかと思うと、おこられることは、ぼくをせい長させてくれているのかなと思いました。それではさい後に、
「おこられて せい長するよ ぼくと母」

